

[Kaffeeklatsch] 12

アチェ州タケンゴンの豪雨災害復興に
KOPI LUWAK LIARの“強ウン”を

広島修道大学教授 中根光敏

豪雨災害（2025年11月）が発生したスマトラ島北部に位置するタケンゴンは、極上のガヨ・マンデリンを産出する小規模のコーヒー農園が密集している。標高1,200mにあるラウト・タワール湖畔の街Kota Takengonには沢山のカフェがあり、多くの人々でにぎわう“コーヒー都市”となっている。被災したタケンゴンの友人から「コピ・ルアクを買って助けて欲しい」と連絡が届いたのは2026年3月だった。「何か支援する方法はないか」と考えていたところだったので、「取り敢えず10kg送って欲しい」と依頼した。個人輸入の経験さえもなかったので、両替・送金できるネット銀行の口座を開設するだけで四苦八苦したものの、4月には「ガヨ・コーヒー保護協会認定書」（写真）付のコピ・ルアク10kgが無事届いた。

輸出業者の認定書は見たことがあったけれども、保護協会の認定書を見るのは今回が初め、私が勤務する大学名も記載されている。認定書にあるKOPI ARABIKA GAYO LUWAK LIARとは「ガヨの野生ジャコウネコのアラビカ・コーヒー」という意味で、現地で“LUWAK LIAR野生のジャコウネコ”は（人工飼育ではない）「本物のコピ・ルアク」を表す呼称である。

念のために1kg焙煎して飲んでみて、品質に間違いのないことを確認して、たまたま別件でメールしたコーヒー仲間「支援に協力して下さる方がいたら声をかけてほしい」と依頼したところ、思ってもみなかった方が真っ先に支援を申し出て下さった。かうひい堂の内田牧さんである。内田さんに焙煎してもらえるなんて、やっぱりコピ・ルアクの「ウン」は半端じゃない。さらに内田さんはSNSに「もっとクセがあるのかと思いましたが、上品で奥行きのある豆です」とあげて下さって感謝。あまりにも高額なので「特別クセが強い」と勘違いされることが多いけれども、野生ジャコウネコの糞から精製したKOPI LUWAK LIARは、クセなどなく、上品な香味をもったコーヒーである。

コーヒー仲間たちが支援を申し出てくれ、タケンゴンの友人に第二弾を依頼することとなった。二回目は、壁にぶつかり、現地で一ヶ月以上留め置かれることになったものの無事到着。その間に、東京で7月に「野生コピ・ルアクの珈琲を楽しむ会」を開いて下さるコーヒー仲間も現れて感謝。

KOPI LUWAK LIARの“強ウン”にあやかって、さらに支援いただけるように、コーヒー仲間たちに呼び掛けていきたい。

[付記] 本稿は2025-2026年度 広島修道大学調査研究費（ひろみら領域研究）を受けて行っている「グローバル化と社会変容」と題した共同研究の成果の一部である。



ガヨ・コーヒー保護協会財団の認定書（2026年4月）